/@ 山松ウガー/L

小松ウオール工業株式会社 | 東証プライム 7949

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

2025年11月26日

事業概要	2
2026年3月期2Q 決算概要	{
2026年3月期 業績予想	15
Appendix	21

小松ウガー/L

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

事業概要

会社概要

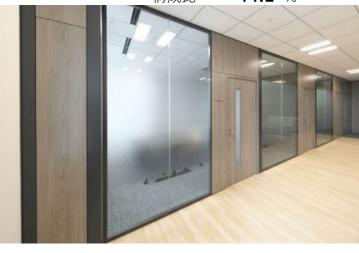
社	名	小松ウオール工業株式会社
代表取締役社	.長	加納 慎也
灵	<u>1</u>	1968年1月
上場市	場	東証 プライム (7949)
事業内	容	可動間仕切、固定間仕切、トイレブース、移動間仕切、ロー間仕切 の製造、設計、販売、施工等
売 上	高	446億円 (2025年3月末)
従業員	数	1,399名 (2025年3月末)
本	社	石川県小松市工業団地1丁目72番地
営業拠	点	全国54支店(2025年3月末)

主要製品 売上高構成比

リセンカナール

可動間仕切

売上高 19,661 百万円構成比 44.1 %



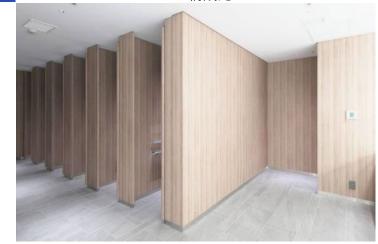
固定間仕切



売上高

トイレブース

売上高**7,753** 百万円構成比**17.4** %



移動間仕切

売上高構成比

6,012 百万円 **13.5** %



ロー間仕切

9,398 百万円



売上高

609 百万円 **1.4** %

売上高

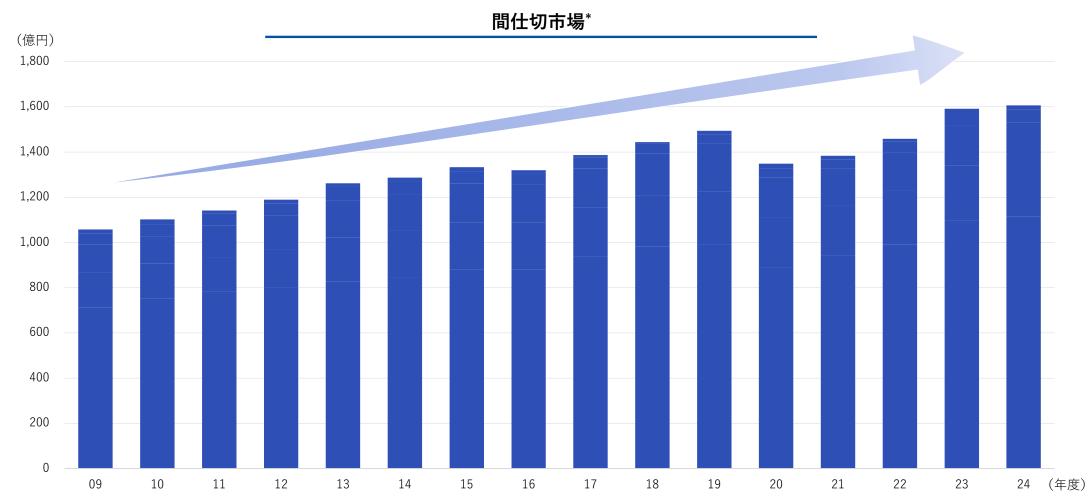
44,616

百万円 (2025年3月期)

市場環境

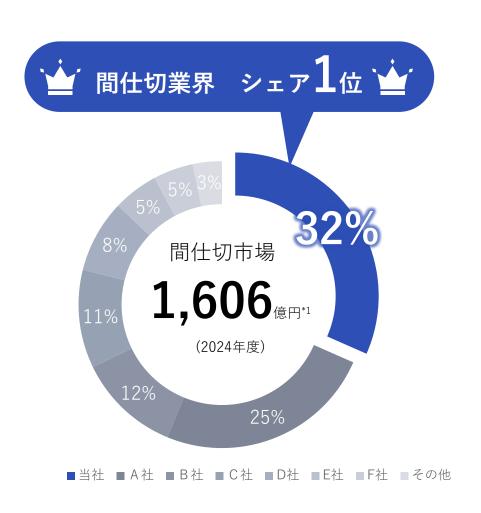
可检查对一儿

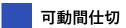
- 2020年度のコロナ禍による減少後は着実に回復、2024年度は0.9%増の1,606億円の販売高となり過去最高の販売高
- 2024年もオフィスビルの竣工は減少したと推定されるが、リニューアルの増加で間仕切市場は好調



^{*} 日本パーティション工業会に属する間仕切メーカーの販売高合計

■ 2024年度の間仕切市場は1,606億円、当社のシェアは業界トップの31.6%(前年度は31.0%)で前年度比0.6ポイント上昇、市場規模の大きい可動間仕切に加えて、移動間仕切、トイレブースでトップシェア





30.3% シェア**1**位 (前年度 28.6%)



38.8% シェア**1**位 (前年度 38.1%)

トイレブース

36.1% シェア**1**位 (前年度 37.1%)

学校間仕切

14.9% シェア4位 (前年度 16.8%)

壁面化粧パネル

32.3% シェア**2**位 (前年度 53.6%)











オーダーメイド品を短納期で、全国に供給できる体制

営業	設計	製造	施工	サービス
54支店で全国カバー 地域密着の営業体制	オーダーメイド品を 素早く開発する 設計力・製造ノウハウ	小ロット多品種生産を 実現 オーダーメイド品を 短納期で出荷	全国14ヶ所に サービスセンター 自社でも施工を実施	メンテナンス契約により 定期点検・修理 施工管理保全室を 設置
				小窓ウカー儿

リログウカール

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

2026年3月期2Q 決算概要

- オフィス向けが引き続き好調、学校や文化施設向けも増収となり、売上高は4.9%増収、ほぼ期初計画通りに着地
- 高付加価値製品の販売増加により売上総利益率も1.3ポイント上昇、人材投資等の販管費増加を吸収し、営業利益は22.7%増益
- 2025年7-9月期も、オフィス向けの好調等により売上高は5.2%増収、営業利益は18.6%増益と1Qに続き好調継続

単位:百万円	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q	2026年3月期2Q期初予想 (25年4月時点)	2026年3月期2Q実績	前年同期比 増減率	予想比 増減率
売 上 高	19,691 100	% 20,117 100	% 21,000 100%	21,107 100%	4.9%	0.5%
売上総利益	6,550 33	% 6,820 33.	% 7,110 33.9%	7,437 35.2%	9.0%	4.6%
営 業 利 益	1,300 6.6	% 971 4.8	% 1,050 5.0%	1,192 5.6%	22.7%	13.5%
経 常 利 益	1,373 7.0	% 1,048 5.2	% 1,100 5.2%	1,220 5.8%	16.4%	10.9%
当期純利益	950 4.8	% 738 3.7	% 750 3.6%	817 3.9%	10.8%	9.0%
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	51円09銭*	39円56銭*	41円20銭	46円51銭	17.6%	12.9%
1 株 当 た り配 当 金	27円50銭*	30円00銭*	65円00銭	65円00銭	116.7%	_

^{* 2024}年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割。1株当たり当期純利益と1株当たり配当金の算出は分割後の株数で遡及修正

品目別売上高

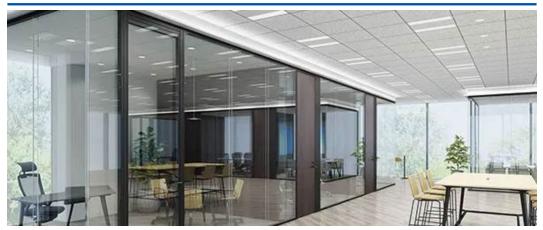


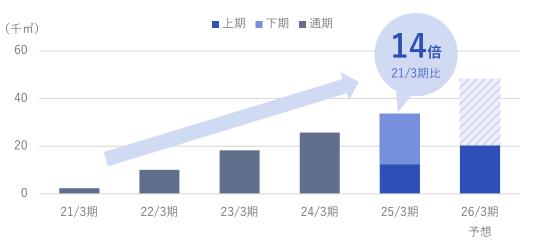
- 可動間仕切やトイレブースはオフィス向けが好調、ロー間仕切も回復、一方で移動間仕切は宴会場など宿泊施設向けが減少
- 受注残は全品目増加、学校、文化施設向けが好調、宿泊施設向けも回復。品目別では、固定間仕切、移動間仕切は10%強の増加

単位:百万円	2025年3月期2Q	2026年3月期	2Q				
	実績	実績	前年同期比 増減率	受注高	前年同期比 増減率	受注残高	前年同期比 増減率
売 上 高	20,117	21,107	4.9%	25,185	3.0%	22,975	9.3%
□可動間仕切	8,837	9,901	12.0%	10,853	1.9%	6,235	6.3%
□固定間仕切	4,358	4,270	△2.0%	5,301	△0.4%	6,646	10.9%
└ トイレブース	3,164	3,409	7.7%	4,768	7.3%	4,803	8.7%
└移動間仕切	2,888	2,649	△8.3%	3,265	3.0%	4,780	10.2%
□□一間仕切	261	335	28.1%	383	29.4%	134	31.2%
しそ の 他	606	541	△10.7%	613	6.2%	374	20.9%

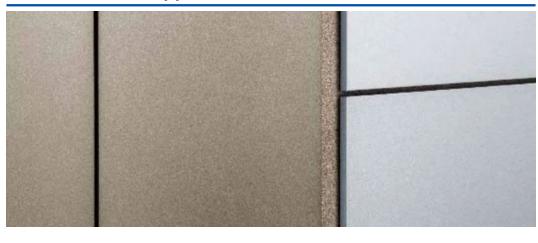
- **2019年9月発売の意匠性を高めた連続ダブルガラス間仕切の「マイティスマートレール」の出荷量は26年3月期2Qも前年同期比1.6倍に増加**
- **■** 2023年10月発売のCopper Seriesも好調継続、26年3月期2Qも前年同期比3.2倍

マイティスマートレール(2019年発売)





Copper Series (2023年発売)





- 2019年から大型ショールームを強化し、大阪、東京、名古屋にオフィス機能と一体化したショールームを順次開設
- デザイン事務所や依頼企業が当社製品に直接触れることで、デザイン性に優れた高付加価値製品の採用が増加

2019/11 **大阪** (2024/10移転リニューアル)



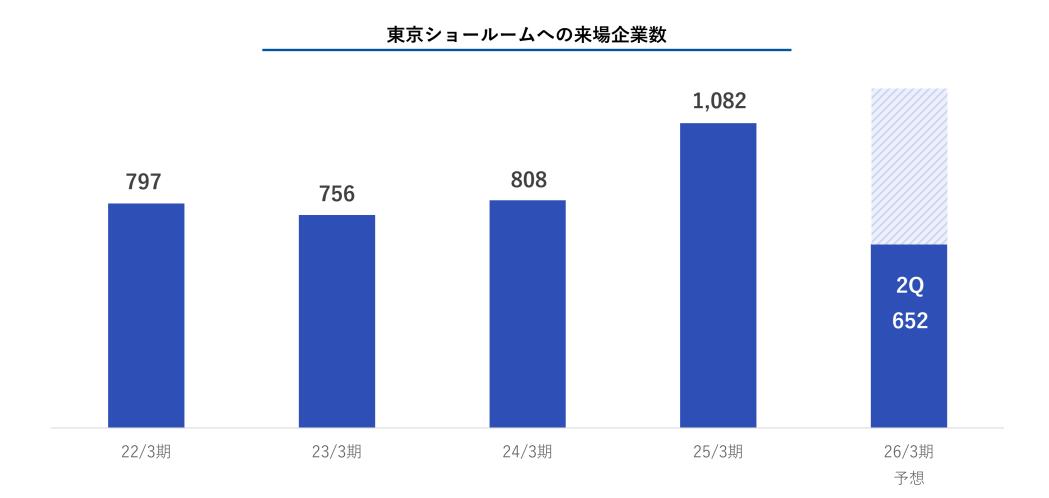
2021/1 東京 (2024/5リニューアル)



2023/7 **名古屋** (2025/6リニューアル)



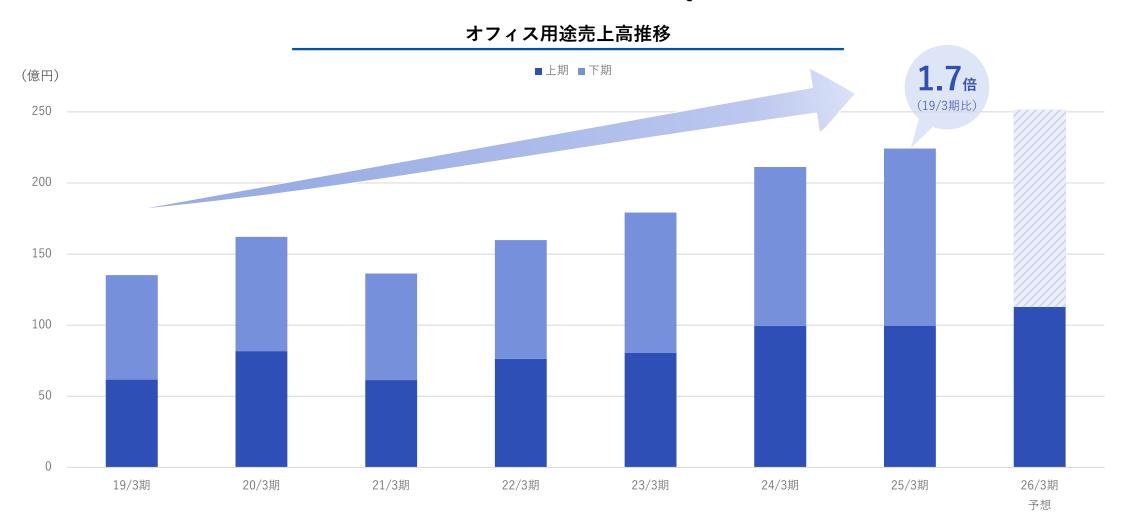
■ 東京ショールームは2021年5月にオープン、2024年5月のリニューアルをきっかけとして25年3月期は34%増の1,082社が来社
「建築セミナー」を始めた26年3月期2Qも前年同期比13%増と堅調、今後も当社製品に触れて貰う機会を増やし販売増につなげる



オフィス用途売上高の推移



- オフィス移転工事の需要を取り込むため、デザイン事務所や事務器メーカー専門の営業拠点も開設し、オフィス向けを強化
- **2025年3月期のオフィス用途売上高は2019年3月期比で1.7倍への増加、26年3月期2Qも前年同期比13%増加と好調に推移**



小松ウガー/(

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

2026年3月期 業績予想

- 通期は期初予想継続。上期は計画を上回ったが、可動間仕切などフル生産が続いており、出荷がずれ込むリスクなどを考慮した慎重な予想
- オフィスのリニューアル需要が引き続き好調で、可動間仕切に加え、トイレブースも増収に貢献。売上高は4.2%増収、増収効果や高付加価値製品の販売増加による売上総利益率上昇により、営業利益は11.7%増益を予想
- **期初に配当方針を純資産配当率(DOE)3%から6%水準に変更、2026年3月期の配当も期初計画を継続し、前期比倍増の130円を予想**

単位	:百万円				2024年3月	期	2025年3月	期	2026年3 通期予		前期比 増減率
売		上		高	43,551	100%	44,616	100%	46,500	100%	4.2%
営	業		利	益	3,640	8.4%	3,635	8.1%	4,060	8.7%	11.7%
経	常		利	益	3,732	8.6%	3,756	8.4%	4,130	8.9%	10.0%
当	期	純	利	益	2,775	6.4%	2,650	5.9%	2,930	6.3%	10.5%
1 当	株 期	当 純	た 利	り 益	149円04銭	*	145円64銭	*	160円9)7銭	10.5%
1 配	株	当	た	り 金	62円50銭*	*	65円00銭	*	130円(00銭	100.0%

^{* 2024}年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割。1株当たり当期純利益と1株当たり配当金の算出は分割後の株数で遡及修正

第38回「日経ニューオフィス賞」受賞

- 「101 TOKYO SHOWROOM OFFICE」が日経ニューオフィス賞において【ニューオフィス推進賞 クリエイティブ・オフィス賞】を受賞
- 来訪者が実際のオフィス風景を通じて製品の使い方や効果を体感できる。プライバシーを守りつつ、開かれた空間での働き方が実践されており、社員と顧客が同じ空間で時間を共有することで、双方向のコミュニケーションが活性化されることが評価された

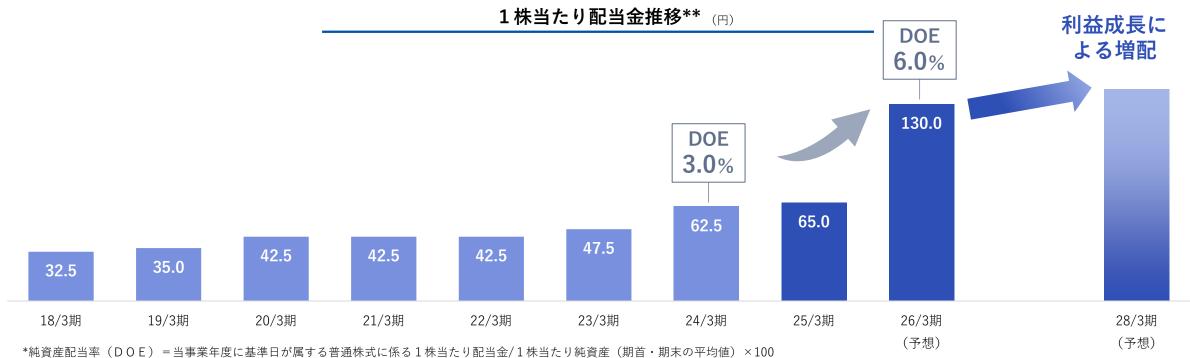


- **■** 他社は大型の移動間仕切(高さが8~10m)を1枚では製造できず、当社が強みを持つ製品
- 大型の移動間仕切をホテルの宴会場等の内装用だけでなく、高強度が必要なビルの外装用にも活用(写真はブルーフロント芝浦 28階の外壁)



- **2026年3月期から株主還元方針を変更し、純資産配当率(DOE)6%を目安とした配当へ引き上げ。なお、23年4月にはDOE3.0%下限に変更**
- 上記方針に基づき、2026年3月期は前期比2倍の130円への増配を計画

純資産配当率*(DOE)6%を目安とした配当を実施 持続的な成長も実現し、配当水準の安定的向上を目指す

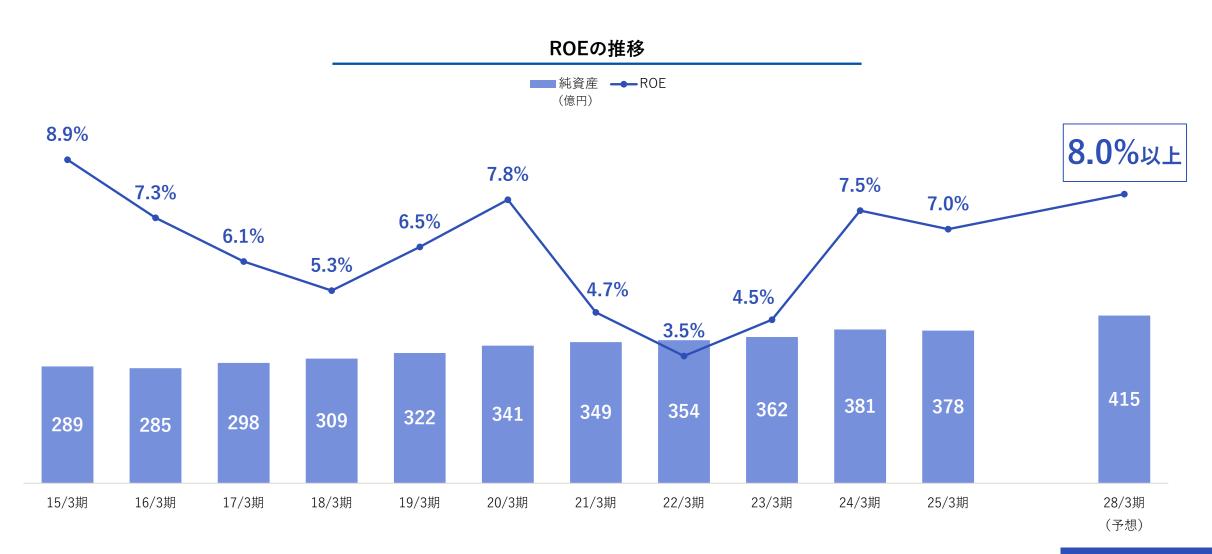


^{**2024}年10月1日付で1:2の株式分割を実施。過年度の配当金は株式分割後の株数での配当金に遡及修正

ROEの推移

可格ウオール

■ 売上高当期純利益率の改善と株主還元強化により、中計最終年度の2028年3月期にはROEを8%以上に引き上げる



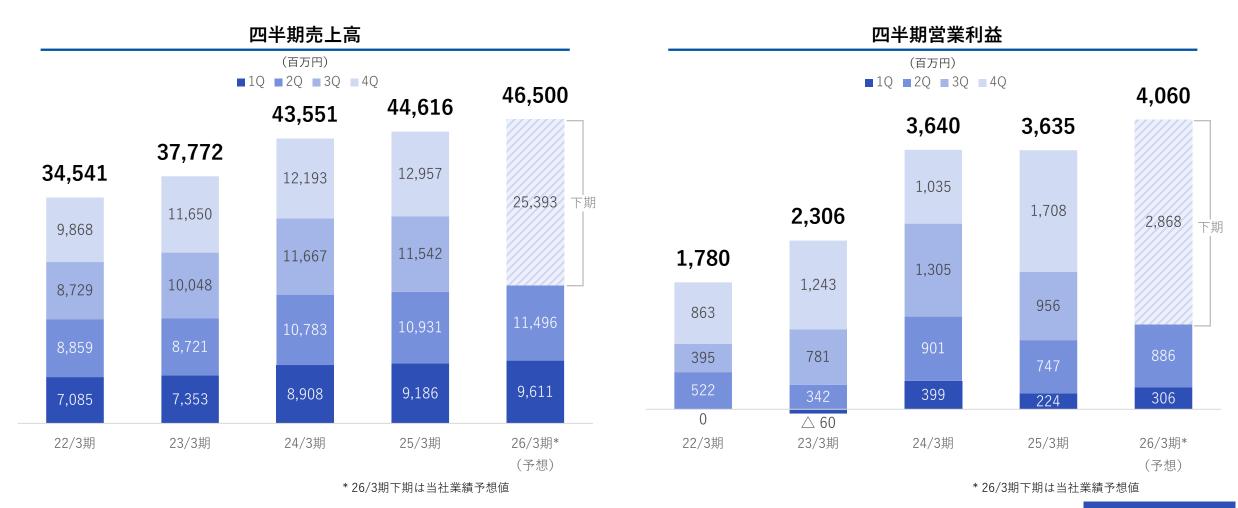


2026年3月期第2四半期 決算概要説明

Appendix

四半期業績推移

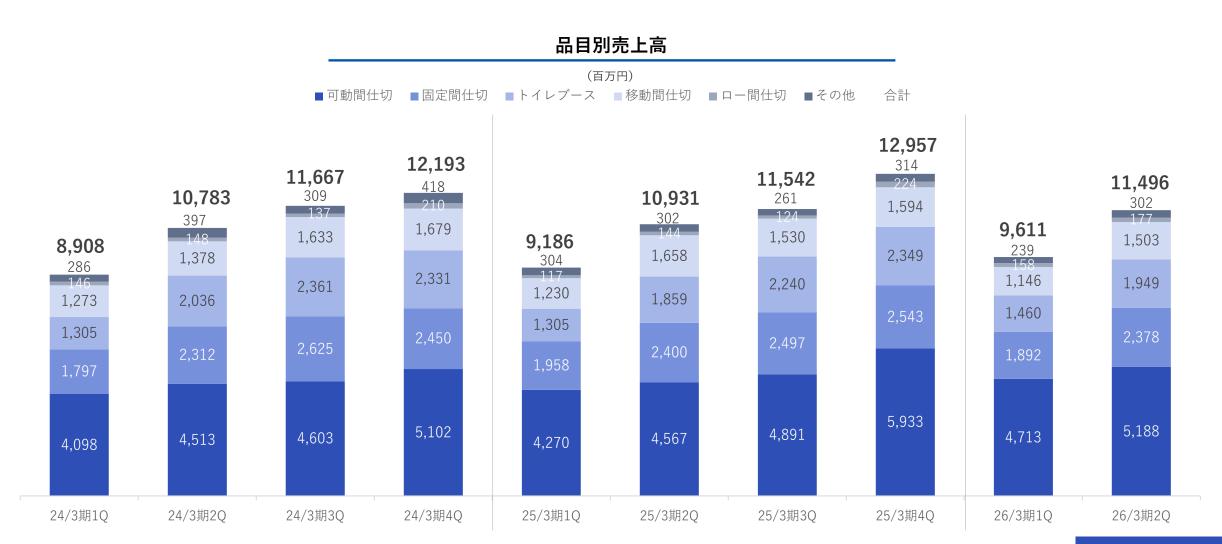
- 小松ウガール
- 2026年3月期7-9月の売上高はオフィス向けの好調などから5.2%増収、増収や高付加価値製品の増加等により営業利益は18.6%増益
- 2026年3月期もオフィス向けの好調が続くことを主因に増収を予想、売上総利益率の上昇により人件費の増加等を吸収し営業増益を予想



四半期品目別売上高推移



■ 2026年3月期7-9月はオフィス向け中心に引き続き可動間仕切が好調に推移、トイレブース、ロー間仕切も堅調



- 4人から6人程度の複数人での使用を想定した床置き型のワークブースを発売
- 設置場所を選ばないシンプルな箱型形状で、集中したい時にも、アイデアを交わしたい時にも活用できるワークブース
- **遮音性を重視した高付加価値製品のAgoraに加えて、普及価格帯のIDOを発売することで製品ラインナップを強化**



■ 新工場建設に向けた投資により有形固定資産が増加、一方で現預金や売上債権等が減少し、総資産は2025年3月期末と同水準 ROE上昇に向けて、増配等により純資産の増加を約3億円に抑制したが、自己資本比率は81.8%と引き続き高い財務安全性を維持

単位:百万円	2024年3月期末	2025年3月期末	2026年3月期2Q末	前期末差
流動資産	32,539	31,322	27,845	△3,477
現預金	17,640	16,714	15,108	△1,606
売上債権・契約資産	13,615	13,231	11,155	△2,078
棚卸資産	1,123	1,117	1,337	220
固定資産	14,915	15,433	18,676	3,243
有形固定資産	11,767	12,260	15,462	3,202
無形固定資産	385	415	436	21
投資その他の資産	2,763	2,757	2,777	20
総資産	47,455	46,756	46,522	△234
負債	9,388	8,965	8,444	△521
買掛金	2,350	2,323	2,076	△247
有利子負債	0	0	0	0
純資産	38,067	37,790	38,077	287
負債純資産合計	47,455	46,756	46,522	△234

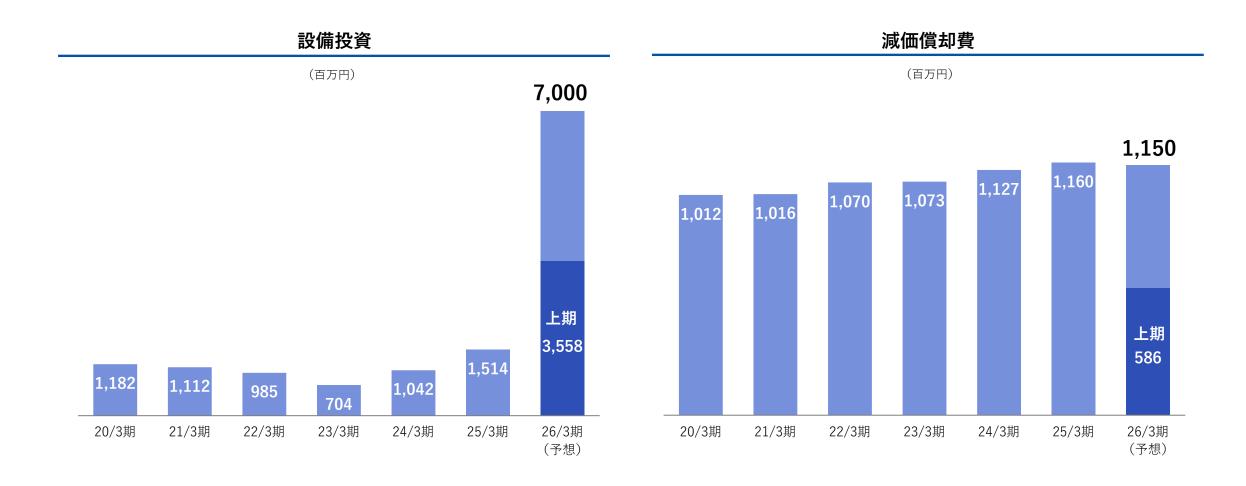
キャッシュ・フロー計算書

■ 利益計上や売上債権の減少から営業CFは25億円のプラスとなった、一方で新工場稼働に伴う設備投資により投資CFは25億円のマイナス

■ 配当金を6億円支払ったものの、期末現預金は130億円と前年同期並みを維持

単位:百万円	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q	2026年3月期2Q	前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,424	1,677	2,576	899
税引前当期純利益	1,373	1,100	1,220	120
減価償却費	522	564	586	22
売上債権の増減額(△は増加)	1,633	2,388	2,079	△309
棚卸資産の増減額(△は増加)	△46	△90	△219	△129
仕入債務の増減額(△は減少)	△291	△392	△247	145
投資活動によるキャッシュ・フロー	△637	△1,156	△2,563	△1,407
有形固定資産の取得による支出	△611	△639	△3,475	△2,836
定期預金の預入・払戻による支出入	0	△500	1,000	1,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△528	△669	△632	37
配当金の支払額	△520	△661	△625	36
現金及び現金同等物の期末残高	12,734	13,373	13,029	△344
フリーキャッシュ・フロー	1,787	521	13	△508

- 2026年3月期は加賀工場2号棟建設、名古屋ショールームへの投資等で70億円の設備投資を計画
- ■上期は35億円の設備投資を実施。2号棟着工に伴う投資に25億円、既存工場の機械設備等に4億円、名古屋ショールーム関連で3億円等



設備投資 加賀工場2号棟 (仮称)

- 2024年4月に加賀工場2号棟(新棟)の建設を公表、第三工場の可動間仕切の一部の生産ラインを移管、オフィス向けなどで需要が大きく伸びている可動間仕切の生産能力を増強。新棟は土地造成を終え、2025年5月から建設開始、2027年5月に操業開始予定
- 中期経営計画期間中(2024年3月期~28年3月期)の設備投資は150億円以上を計画

名			称	加賀工場2号棟(仮称)
主	な	事	業	可動間仕切の製造 研究開発
投	資	金	額	約95億円
建	築	面	積	約19,000㎡
延	床	面	積	約19,700㎡
建	設開	始 年	月	2025年5月
操	業開	始 年	月	2027年5月予定



■ 中期経営計画「NEXT VISION 2028」は想定を上回るペースで進捗、計画目標を上方修正(2025年3月期決算時)

	変更前	_	変更後
ROE	5%~8%	>>>	8%以上
売上高成長率	3%~6%	>>>	4%~6%
営業利益率	7%~10%	>>>	8%~10%

成長率と利益率の上昇のための追加施策

戦略検討チームの設立

- 製造、営業の主力メンバーで構成
- オフィスのリニューアル需要など成長領域での課題を抽出 し、製販両面から改善策を検討
- 成長戦略の立案と、そのために不足するビジネスについて、 M&Aも含めた改善策を検討

投資委員会を設置

- 関連役員等で構成し、ROICやIRRを用いた投資判断の徹底
- 加賀工場2号棟など大型投資案件で、収益性を踏まえた投資 の可否を検討
- M&Aについても、収益性の観点から可否を検討

■ 中長期的に成長戦略を立案・実行し、利益成長を図る 短期的にはDOE6%を目安として株主還元を強化するとともに、資本コスト低減のためIR活動を強化するなどの施策を実行

売上高 当期純利益率の改善 資本効率性重視

Ⅰ 投資委員会の設立、ROIC、IRRによる投資判断の徹底

成長戦略

| 戦略検討チームを設立し、M&Aを含めた成長戦略の立案と実行による 売上高成長率と利益率の引き上げ

財務レバレッジの 改善

株主還元強化

| DOE6%を目安に配当を実施

その他 (資本コスト低減策等) IRの強化

| 投資家との対話、エンゲージメントの拡充による株価ボラティリティの低減

中計の着実な実行とIR強化による投資家の期待成長率の引き上げ

株価を意識した 経営の促進 | 役員報酬制度改定の検討開始

| 従業員持株制度の拡充(奨励金の引き上げ)

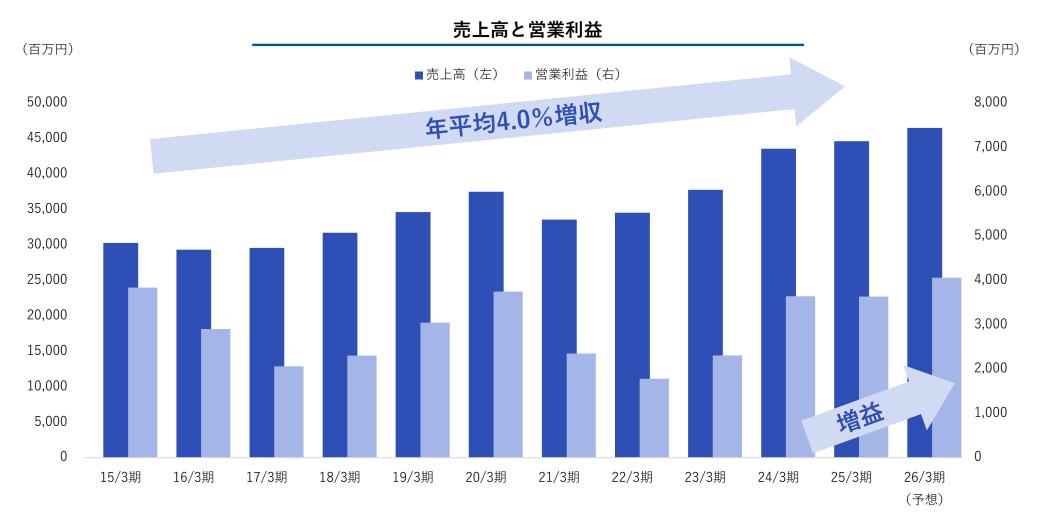
25年3月期末

■ 今後のキャッシュインと現預金を使い、成長投資と株主還元を強化、2028年3月末の現預金は90億円(月商の2ヶ月強)の水準に削減

3年間のキャピタルアロケーション (主要設備投資) 純利益 合計 設備投資 85億円 Ⅰ 加賀工場2号棟建設(可動間仕切)100億円 125億円 130億円 | ショールーム関連、合理化投資 30億円 減価償却費 40億円 | 株主還元を強化し、中計期間中の配当水準を 株主還元 DOE3%下限から6%を目安に引き上げ 72億円 株主還元強化により、純資産の増加抑制と期末現預金を削減 期末現預金 167億円 期末現預金 90億円

28年3月期計画

- 間仕切需要拡大に伴い、売上高は2025年3月期まで過去10年間で年平均4.0%増収
- 2025年3月期はオフィス向けなどが好調で増収、売上総利益も増益となったが、物流費等の販管費が増加し、営業利益は前期並み



工場

■ 石川県小松市、加賀市の4工場で間仕切・トイレブース・ドアを製造

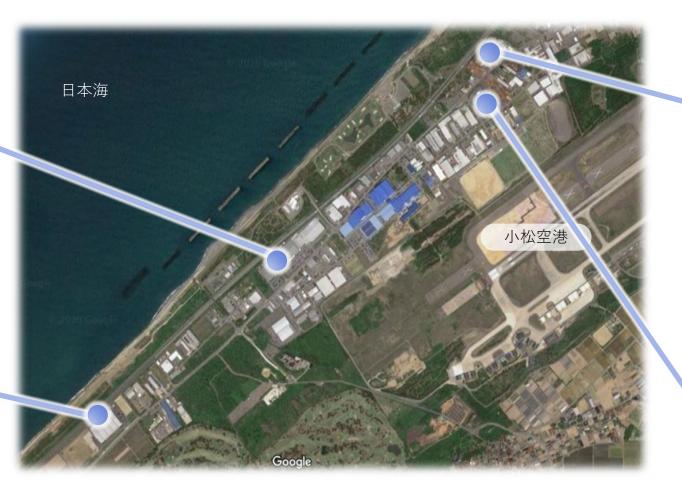
第三工場

可動間仕切の製造



加賀工場 ドアの製造





第一工場

移動間仕切の製造



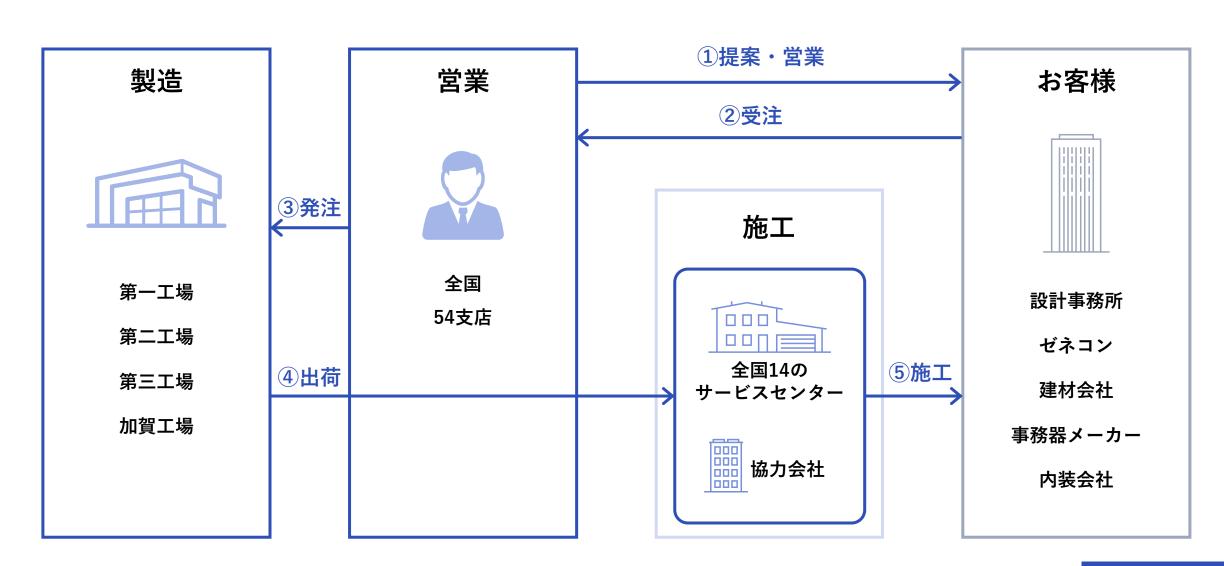
本社・第二工場

本社及び トイレブースの製造



ビジネスの流れ

■ 製造から施工まで当社で対応、営業は全国54支店、製造は4工場



■全国に54拠点の支店を配置、全国に安定した納期、品質で市場に供給。お客様に寄り添った打ち合わせ、物件ごとの対応を実現

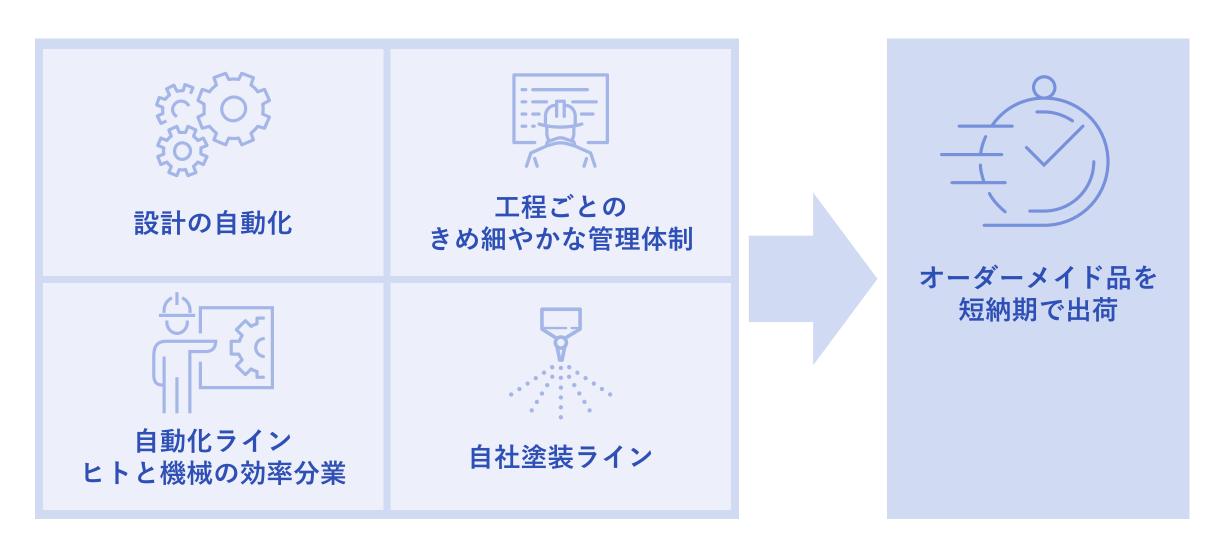
- ■地域での強いネットワーク
 - ■オーダーメイド品の提供
 - 受注から施工まで同じ担当者が対応

オーダーメイド対応へのこだわり

■ 自社開発品の提案のみならず、設計事務所などからの要望に沿った製品も開発・設計



■ 小ロット多品種生産ができる仕組みを作り、オーダーメイド品を効率的に生産。受注から出荷まで3~4週間で対応



■ 特定したマテリアリティに基づき、マテリアリティ経営を推進する

	マテリアリティ	テーマ
F	▶持続可能な循環型社会の実現	・カーボンニュートラルに向けた取り組み・再生可能エネルギーの利用・廃棄物削減と資源の有効活用
	▶製品を通じた気候変動対応への貢献	・サステナビリティ製品対応に向けた製品開発・改良
	▶人材開発	• 人材育成の強化
S	> Well-being	・エンゲージメントの向上・働きがいの向上、ワークライフバランス、健康推進・人権・多様性の尊重と多様な人材の活躍 (ダイバシティ・エクイティ&インクルージョン)
	DX推進と生産性の向上	・デジタルデータの活用と社内業務の協働による ビジネスモデルの構築
	> ステークホルダーエンゲージメント	・リーダーシップの発揮 ・サプライヤーとの共存共栄 ・顧客満足・信頼の追求
G	▶ ガバナンスの更なる改革	・コンプライアンスの徹底 ・組織体制の全体最適化
G	> リスクマネジメント	・災害対策、リスク管理体制の強化

関連するSDGs





























































/@ 小松ウオー/し

小松ウオール工業株式会社 東証プライム 7949

お問合せ先

小松ウオール工業株式会社 社長室

TEL 0761-21-3131(代表)

https://www.komatsuwall.co.jp/form/form.php?form_id=201